

年 組 名前:

外国人が住みよい地域に

富士吉田市で暮らす在留外国人の数が過去最多を更新し、市は外国人が住みやすい地域に向けた取り組み強化に乗り出している。1日時点で942人が生活。状況把握のための事業所アンケートを初めて実施して、市民協働推進課は「多文化共生を目指して必要な支援策を考えたい」としている。〈赤池悠〉

同課によると、市内の在留外国人は、1990年の入管難民法改正を契機に日系ブラジル人らが増加。住民基本台帳ベースで、2005年に一時ピークを迎えて807人に。その後は徐々に減り、東日本震災直後の12年には523人となったが、再び増加に転じた。

特に新型コロナウイルスの5類移行後の増加は著しく、23年4月の664人から、今年12月までの1年半余りで約280人増えた。大きく押し上げる要因となったのは就労目的のベトナム人で、14年にはゼロだったが、現在は222人が市

富士吉田市 状況把握、支援を模索

内に暮らす。

市では、市や民間でつくる市国際親善委員会が中心となり、さまざまな外国人支援策や交流イベントを展開してきた。03年から続く日本語教室はレベル別で週に3回開催。各回ほぼ定員が埋まるほどの人気という。

ただ、同課によると、これまで在留外国人の具体的な就労や生活に関わる状況把握が課題となっていた。人数が増える一方で、外国人による市役所窓口への生活相談件数は多くなく、担当者は「在留外国人が行政の支援情報にアクセスしづらい状況がある」とみてい

る。

市は現在、富士北麓地域に拠点がある1845事業所を対象に、外国人労働者に関するアンケートを実施している。外国人の就労先と必要なサポートを把握した上でイベントの周知にも生かし、外国人が地域と交流する機会の確保にもつなげる狙いがある。

来年1月には、市内の小中学校に勤務する外国語指導助手（ALT）向けに富士山噴火を想定した防災講座を初めて開く。今後、市内の他の外国人労働者にも呼びかけて回を重ねていく予定だ。担当者は「外国人も市民の1人として、地域住民と共に生きる社会を実現していきたい」と話している。

(2024年12月17日付 山梨日日新聞16面)

問1

富士吉田市で暮らす在留外国人が増加しています。市は、何を指して支援策を考えますか。

.....

問2

2023年4月から1年半余りで約280人増えた要因を教えてください。

.....

問3

2025年1月には、だれに対して、どのような講座を開きますか。

・だれに: ・講座: